

予算特別委員会 質疑応答

学校の安全について (1)

(1) これまで、学校施設においても、アスベスト対策に取り組んできたが、現状はどうか。すべての除去は完了したのか。

◎ 学校施設のアスベスト対策については、平成 20 年（2008 年）に入り、これまで国内での使用はないとされていたトシモライト、アンソフィライト、アクチノライトという 3 種類のアスベストが国内で使用されていることが判明し、本市でも、再度調査を行い、その結果、小学校 18 校、中学校 3 校でアスベストを含む吹付け材が使用されていることが判明しました。

◎ この 21 校のうち、小学校 17 校、中学校 3 校については、夏休みを中心に除去し、平成 21 年度（2009 年度）中に完了しました。

◎ 残りの小学校 1 校は、校舎の耐震補強工事に合わせて除去することになるため、平成 22 年度（2010 年度）の夏休みに行います。これによって、すべてのアスベスト対策は終了することになります。

(2) 次に、校舎の耐震化について、これまで国の経済危機対策等の交付金を活用して、計画を前倒して実施してきたと思うが、どの程度、早めることができたのか。

◎ 校舎の耐震化について、平成 20 年度（2008 年度）2 月および平成 21 年度（2009 年度）6 月補正予算により、国の経済危機対策等の交付金を活用して実施した事業は、耐震診断です。

平成 20 年度（2008 年度）2 月補正 61 校園 2 億 3, 070 万円（全額：地域活性化・生活対策臨時交付金）

平成 21 年度（2009 年度）6 月補正 31（50）校 3 億 1, 085 万 1 千円（全額：経済危機対策臨時交付金）

◎ これは、平成 20 年（2008 年）6 月の「地震防災対策特別措置法」の改正の主旨に鑑み、本市においても、大規模な地震により倒壊等の危険性が高い校舎について、平成 24 年度（2012 年度）までに完了するよう計画を見直したため、耐震診断結果を早く判明させる必要があったことから、平成 22 年度（2010 年度）以降に実施予定の耐震診断を前倒ししたものです。

◎ したがって、耐震診断の結果、危険性が高いと判明した校舎については、結果的に前倒して実施することになりますが、平成 30 年度（2018 年度）までの全体の計画期間については、変更はありません。

これまでも、平成20年度（2008年度）の国の補正予算に合わせ、同年度の12月補正予算に校舎耐震補強工事（小学校2校1億8,390万円）を、また、2月補正予算には、校舎の耐震診断（61園校2億3,070万円）を前倒して実施するよう所要額を計上しました。

さらに、平成21年度（2009年度）6月補正予算には、平成22年度（2010年度）以降に実施予定であった残りすべての校舎耐震診断（31校 3億1,085万1千円）を前倒して実施するよう計上し、これにより危険性が高いと判断されたものについては、平成24年度（2012年度）までに前倒して耐震補強工事を行うことにしています。

今後とも、こうした国の補正予算などの機会も捉えながら、校舎の耐震化に積極的に取り組んでまいります。

教職員による登下校時の巡回について

- 当初予算主要経費P191の「教職員等による登下校時の巡回」経費として、314万5千円が計上されているが、何の経費か。
 - ◎ 学校に配備しているバイク85台に係る維持管理費として172万1千円、また、各区役所に配備している巡回用パトロールカー8台に係る維持管理費として142万4千円、計314万5千円を計上しています。
- 学校に配備しているバイクの利用状況はどうか。
 - ◎ 今年度の実績は、年度末締めで調査予定のため、データがありませんが、平成20年度（2008年度）におけるバイク85台の年間平均使用回数は62回で、利用の多い学校では年間272回、少ない学校では6回となっています。
- バイクの利用回数に差があるのは、どのようなことが考えられるのか。
 - ◎ 利用回数に差があるのは、学区の地理的状況が異なることや、バイクの乗り手となる教職員等の数に差があることなどが考えられます。
- 登下校時の見守り活動者数の増減は、どのようにになっているのか。
 - ◎ 平成20年（2008年）10月の調査では、登下校時の見守り活動を行っていただいている保護者・地域住民等は約3万7千600人でしたが、平成21年（2009年）10月の調査では、約3万5千人となり、約2,600人の減少となっています。
- 登下校時の見守り活動者が減少している原因を、どのように考えているのか。
 - ◎ 昨年10月に、学校を通じて登下校時の見守り活動者数を把握するとともに、昨年12月から今年1月にかけて、各小学校区を定期的に巡回している地域学校安全指導員10名から、各地域の見守り活動の現状等について聴き取り調査をしました。
地域住民の見守り活動者の減少については、活動していただいている方に比較的高齢な方が多く、見守り活動が困難になられる方がおられる一方、なかなか後継者が見つからないという状況があると考えています。